

2 指導の工夫・改善

領域	昨年度の状況と本年度の傾向	今後の指導の重点
数と式 (76.9%)	・平均正答率は昨年度よりやや上がった。 士気の展開、因数分解の理解は十分であるが、平方根の大小、二次方程式の利用の理解は不十分である。	・平方根の概念を理解させる。二次方程式の利用の場面で何をどう式に表現するのかを明確にし、式として表現することと、解くことを一体化させていく。
図形 (85.1%)	・平均正答率は昨年度とほぼ同じである。 三角形の相似や相似比を求めること、平行線と線分の比などは、授業で繰り返し取り扱い、多くの問題に触れてきた結果だと思われる。	・今後も三角形の証明を利用して相似の証明を考えさせたり、平行線と線分の比などの場面では多くの問題を繰り返し取り入れることで確実な学習内容の定着を図っていくようにする。
数量関係 (69.7%)	・平均正答率は昨年度よりやや下回った。 特に $y=ax^2$ のグラフの理解が不十分であった。また、関数の利用の分野で適切に立式し、考える力が備わっていない。	・全体的にもう少し確実な力をつけさせるために授業中に確認を確実にやっていく。 また、文章問題などに対して進んで問題に取り組む、その良さに気づいていけるような展開を工夫し学習内容の確実な定着を図る。
領域名 (平均正答率)		